彙　報

一　京都大学文学部哲学科講義題目

――昭和四十九年度――

※二回生が履修できる専門科目
〔共〕大学院と共通
〔院〕大学院のみ

哲　学

講義　教　授　辻村　公一　※哲学概論
研究　助教授　木曽　好能　論理学　〔共〕
〃　講　師　杉原　丈夫　現代論理学　〔共〕
〃　講　師　東　専一郎　日本思想史(倫理学と共通)〔共〕
演習　助教授　木曽　好能　Hume : A Treatise of Human Nature. Bk. I　〔共〕
〃　講　師　井上　庄七　Descartes : Meditationes de prima philosophia　〔共〕
〃　講　師　観山　雪陽　Kant : Kritik der praktischen Vernunft (倫理学と共通)〔共〕

西洋哲学史

講義　教　授　藤沢　令夫　※西洋古代哲学史概説
〃　教　授　山田　晶　※西洋中世哲学史概説
〃　教　授　辻村　公一　※西洋近世哲学史概説
研究　教　授　山田　晶　創造の問題　〔共〕
〃　教　授　辻村　公一　ニヒリズムの問題(倫理学と共通)　〔共〕
〃　講　師　水地　宗明　マルクス・アウレリウス研究　〔共〕
〃　講　師　川崎　幸夫　中世の神秘思想　〔共〕
〃　講　師　印具　徹　アンセルムス研究(基督教学と共通)　〔共〕
〃　講　師　近藤　洋逸　科学思想史　〔共〕
〃　講　師　川村　栄助　ヘーゲル哲学の根本問題　〔共〕
演習Ⅰ教　授　藤沢　令夫　Platon : Sophistes　〔共〕
演習Ⅱ講師　教授　藤沢　令夫　尼ヶ崎　徳一　Aristoteles : Metaphysica Λ〜　〔共〕
演習Ⅰ教　授　山田　晶　Augustinus : Confessiones〔共〕
演習Ⅱ教　授　山田　晶　Thomas Aquinas : Summa Theol. I　〔共〕
演習Ⅲ教　授　山田　晶　Thomas Aquinas : Summa Theol. I　〔共〕
演習　教　授　辻村　公一　Kant : Kritik der reinen Vernunft　〔共〕
〃　助教授　西谷　裕作　Leibniz : Discours de la métaphysique (倫理学と共通)　〔共〕

〃　教養部教授　上田　泰治　Whitehead : Process and Reality　〔共〕

〃　人文研助教授　山下　正男　Petrus Hispanus : Summulae Logicales　〔共〕

〃　講師　小池　三郎　Augustinus : De vera religione（前年の続き）　〔共〕

演習Ⅰ講師　池長　澄　Maine de Biran : Nouveaux essais d'anthropologie　〔共〕

演習Ⅱ講師　池長　澄　Bergson : La pensée et le mouvant　〔共〕

講読　講師　山野　耕治　W. Jaeger : Paideia, die Formung des griechischen Menschen

〃　講師　種山　恭子　Platon : Apologia Socratis

〃　助手　山本　耕平　Thomas Aquinas : De ente et essentia

印度哲学史

講義　教授　服部　正明　※インド思想史

研究　教授　服部　正明　Vākyapadīya 第一章の研究〔共〕

〃　講師　宇野　惇　インド論理学の基礎概念（仏教学と共通）　〔共〕

〃　講師　丹治　昭義　Brahmasiddhi の研究　〔共〕

〃　講師　辛島　昇　南インド文化の研究（梵語梵文学、西南アジア史学と共通）〔共〕

〃　講師　渡瀬　信之　古代ヒンドゥー法における訴訟手続制度（梵語梵文学と共通）　〔共〕

演習　教授　服部　正明　Sāṃkhyakārikā Yoga-sūtra,-bhāṣya　〔共〕

〃　助教授　小林　信彦　Siddhāntakaumudi（梵語学梵文学と共通）　〔共〕

〃　助手　井狩　弥介　Bhagavadgītā Upaniṣads（梵語梵文学、仏教学と共通）

〃　教授　服部　正明　Mīmāṃsā 学派の言語理論（梵語梵文学と共通）　〔院〕

中国哲学史

講義　教授　湯浅　幸孫　※中国思想史　承前

研究　人文研助教授　吉川　忠夫　顔師古研究（東洋史学と共通）　〔共〕

演習　教授　湯浅　幸孫　王夫之：宋論　〔共〕

〃　講師　日原　利国　公羊正義　〔共〕

〃　教養部教授　尾崎雄二郎　説文解字注　〔共〕

研究　教授　湯浅　幸孫　清朝の儒学　〔院〕

倫理学

講義　助教授　西谷　裕作　※倫理学概論
研究　教　授　辻村　公一　ニヒリズムの問題（西洋哲学史と共通）〔共〕
〃　教養部教授　作田　啓一　価値意識の諸問題（社会学、心理学と共通）〔共〕
〃　教養部助教授　山本　誠作　ホワイトヘッドの研究（宗教学と共通）〔共〕
〃　講師　東　専一郎　日本思想史（哲学と共通）〔共〕
〃　人文研助手　内井　惣七　現代功利主義〔共〕
演習Ⅰ　教　授　森口美都男　J. Ortega Y. Gasset : Man and Crisis〔共〕
演習Ⅱ　教　授　森口美都男　倫理学の諸問題〔共〕
演習　助教授　西谷　裕作　Leibniz : Discours de la méta-physique（西洋哲学史と共通）〔共〕
〃　講師　観山　雪陽　Kant : Kritik der praktischen Vernunft（哲学と共通）〔共〕
〃　講師　稲葉　稔　M. Buber : Ich und Du（宗教学と共通）〔共〕
講読　講師　深谷　昭三　M. Scheler : Wesen und Formen der Sympathie —Von Liebe und Hass—〔共〕

美学美術史学

講義　教　授　吉岡健二郎　※美学概論
〃　助教授　清水　善三　※日本美術史概説
研究　教　授　吉岡健二郎　芸術における聖〔共〕
〃　助教授　清水　善三　浄土教絵画史論〔共〕
〃　教養部助教授　乾　由明　ゴシック美術論〔共〕
〃　教養部助教授　新田　博衛　絵画空間の構造〔共〕
〃　講師　武田　恒夫　初期風俗画試論〔共〕
〃　講師　上平　貢　イタリア・ルネサンス絵画の研究〔共〕
〃　講師　山岡　泰造　中国の山水画について〔共〕
演習Ⅰ　教授　吉岡健二郎　美学・美術史学の諸問題〔共〕
演習Ⅱ　助教授　清水　善三　美術史学の現地指導〔共〕
講読　教養部助教授　新田　博衛　B. de Schloezer : Introduction à J.-S. Bach〔共〕
〃　助手　太田　喬夫　M. Geiger : Beiträge zur Phänomenologie des ästhetischen Genußes
演習Ⅰ　教授　吉岡健二郎　美学・美術史学研究の諸問題〔院〕
助教授　清水　善三
講読　教　授　吉岡健二郎　美学・美術史学関係論文選読〔院〕

心理学

講義
〃 教授 本吉 良治 ※心理学概論
〃 教育学部教授 柿崎 祐一 ※知覚の心理学
〃 教育学部教授 芧阪 良二 視聴覚教育（教育学部と共通）
〃 教育学部教授 梅本 堯夫 教育心理学（教育学部と共通）
〃 教育学部助教授 河合 隼雄 臨床心理学（教育学部と共通）
〃 教養部教授 中島 誠 心理学ⅢB 発達心理学
〃 教養部助教授 木下 富雄 心理学ⅢA 社会心理学
〃 教養部助教授 中谷 和夫 心理学ⅢC 数理心理学
研究
〃 教育学部教授 芧阪 良二 視覚と行動（教育学部と共通）〔共〕
〃 教育学部教授 梅本 堯夫 記憶の諸問題（教育学部と共通）〔共〕
〃 教養部教授 中島 誠 心理言語学研究（言語学と共通）〔共〕
〃 教養部教授 作田 啓一 価値意識の諸問題（社会学、倫理学と共通）〔共〕
〃 教育学部助教授 坂野 登 発達と人格の神経心理学（教育学部と共通）〔共〕
〃 霊長類研究所助手 浅野 俊夫 心理実験における論理制御の理論と実際〔共〕
〃 講師 八木 冕 行動の諸問題〔共〕
〃 講師 岡 宏子 発達理論と研究の諸問題〔共〕
〃 講師 安田 三郎 社会調査法（社会学と共通）〔共〕
〃 講師 安田 三郎 社会統計学（社会学と共通）〔共〕
演習
〃 教授 柿崎 祐一 現代心理学の諸問題
〃 教授 本吉 良治 ※心理学基礎実験（実験甲）
〃 教授 柿崎 祐一 心理学特殊実験（実験乙）
〃 教授 本吉 良治 実験計画法
実習 講師 生沢 雅夫 ※統計法実習〔共〕
講読 助手 松島 隆二 M. D. Hainsworth : Experiments in Animal Behaviour ほか
研究
〃 教育学部助教授 百名 盛之 統計・数理・コンピュータ〔院〕
〃 教養部助教授 木下 富雄 小集団実験法〔院〕
〃 教養部助教授 中谷 和夫 数理心理学〔院〕
〃 講師 前田 嘉明 社会行動の研究—行動の統制原理としてのステレオタイプ—〔院〕
〃 講師 難波精一郎 音響心理学の諸問題—特に聴覚の属性について—〔院〕
演習 教授 柿崎 祐一 本吉 良治 現代心理学の諸問題〔院〕

社会学

講義　教授　池田　義祐　※社会学概論
研究　教授　池田　義祐　社会学の根本問題　〔共〕
〃　助教授　中　久郎　行為と社会構造　〔共〕
〃　教養部教授　作田　啓一　価値意識の諸問題（心理学・倫理学と共通）　〔共〕
〃　講師　新　睦人　都市の社会理論　〔共〕
〃　講師　池田　昭　宗教社会学　〔共〕
〃　講師　小山　陽一　階級論の諸問題　〔共〕
〃　講師　松本　通晴　地域社会論（心理学と共通）　〔共〕
〃　講師　安田　三郎　社会調査法　〔共〕
〃　講師　安田　三郎　社会統計学　〔共〕
演習　教授　池田　義祐　社会学の理論と応用
〃　助教授　中　久郎　社会的行為論
講読　東南アジア助教授　水野　浩一　C. Bouglé : Leçons de sociologie sur l'évolution des valeurs
〃　助手　八木　秀夫　H. R. Wagner ed. : Alfred Schutz, on phenomenology and social relations
演習　教授　池田　義祐　現代社会学の諸問題　〔院〕
〃　助教授　中　久郎　社会構造論　〔院〕
〃　教養部助教授　吉田　民人　理論社会学の諸問題　〔院〕

社会学（文化人類学）

研究　教養部助教授　米山　俊直　社会人類学　〔共〕
〃　理学部教授　池田　次郎　人類学（考古学と共通）
〃　理学部教授　伊谷純一郎

宗教学

講義　教授　武内　義範　※宗教現象学
研究　教授　武内　義範　宗教と社会　〔共〕
〃　教育学部教授　上田　閑照　神秘主義の諸問題　〔共〕
〃　講師　柳川　啓一　祭りの原理と構造　〔共〕
〃　講師　梅原　猛　日本上代宗教史（仏教学と共通）　〔共〕
〃　講師　大峰　顕　フィヒテの後期哲学とその周辺　〔共〕
〃　教養部助教授　山本　誠作　ホワイトヘッドの研究（倫理学と共通）　〔共〕
演習　教授　武内　義範　Hegel : Phänomenologie des Geistes（VII Religion より）　〔共〕
〃　講師　稲葉　稔　M. Buber : Ich und Du（倫理学と共通）　〔共〕
講読　講師　薗田　坦　Kant : Die Religion innerhalb

〃　講師　西村浩太郎　der Grenzen der blossen Vernunft (II. Stück より)
Paul Ricoeur : L'homme faillible (Philosophie de la Volonté, II) (Chap. II より)

仏教学

講義　教授　梶山　雄一　※インド仏教思想史(後期)
研究　教授　梶山　雄一　後期インド唯識思想(後期)〔共〕
〃　助教授　小林　信彦　「トカラ語」仏典研究の基礎的諸問題(梵語学梵文学と共通)〔共〕
〃　人文研教授　藤枝　晃　敦煌仏典総論(前期)〔共〕
〃　人文研教授　牧田　諦亮　中国仏教史(中期)〔共〕
〃　講師　宇野　惇　インド論理学の基礎概念(印度哲学史と共通)〔共〕
〃　講師　梅原　猛　日本上代宗教史(宗教学と共通)〔共〕
演習　教授　梶山　雄一　梵語仏典選集(後期)〔共〕
〃　助教授　小林　信彦　Siddhāntakaumudī(梵語梵文学、印度哲学史と共通)〔共〕
〃　講師　桜部　建　Abhidharmakośabhāṣya, Chap. V〔共〕
〃　助手　井狩　弥介　Bhagavadgītā and Upaniṣads (梵語学梵文学、印度哲学史と共通)
〃　人文研助手　荒牧　典俊　梵文『唯識三十頌安慧釈』〔共〕
〃　講師　一郷　正道　蔵文『中観荘厳論』〔院〕

基督教学

講義　教授　武藤　一雄　※基督教学序説
研究　教授　武藤　一雄　「救済史」観について〔共〕
〃　講師　佐藤　吉昭　キリスト教教父における諸問題〔共〕
〃　講師　遠藤　彰　「ローマ人への手紙」の研究〔共〕
〃　講師　今井　晋　ルター研究序説〔共〕
〃　講師　森田雄三郎　神学の学問性(前期)〔共〕
〃　講師　森　有正　フランス精神史とポール・ロワイアル運動(フランス語学・フランス文学と共通)〔共〕
〃　講師　印具　徹　アンセルムス研究(西洋哲学史と共通)〔共〕
演習　教授　武藤　一雄　Kierkegaard : Der Begriff Angst〔共〕
〃　講師　野本　真也　古典ヘブライ語文法および「創世記」原典の講読・釈義(西南アジア史学と共通)

哲学研究　第五百四十六号　一二六

〃　講　師　G. Lloyd　「コロサイ人への手紙」の原典講読ならびに釈義　〔共〕

〃　教　授　武藤　一雄　院生の研究発表を中心に討論する。　〔院〕

二　京都大学文学部哲学科卒業論文題目

――昭和五十年三月――

哲　学

犬竹　正幸　カントにおける認識論的主観主義の問題

小林　富美子　カントの純粋悟性概念の演繹について

峯　守　ヒュームの絶対的知識と蓋然的知識について

太田　隆二　『存在と無』における「自由」の考察

久礼　文雄　Locke における普遍概念

角　忍　『純粋理性の批判』に於る存在の問題

竹田　浩一　ホワイトヘッドの自然哲学における問題

冨田　恭彦　第一哲学について

早瀬　久起　Wirklichkeit の問題――Hegel の Phänomenologie を中心にして――

八重樫　卓　カントに於ける時間と純粋統覚

田端　信広　『精神現象学』の性格と方法について

西洋哲学史

石井　杉生　プラトンの弁論術批判――『ゴルギアス』を中心にして――

佐藤　容子　『リヴァイアサン』の道徳哲学

矢村　良彦　デカルト哲学とその方法――形而上学と自然科学――

山田　道夫　プラトンのイデア論に関する一考察――『パイドン』における――

渡部　菊郎　不安に於ける無の経験――ハイデッガーの有の問の第一期を中心として――

武田　一博　哲学史の方法論について

土井　民憲　真理認識と実践

仲村　正実　デカルトが「明晰」「判明」という語の下にいかなるものを追求していったか

藤木　政和　一七九四年のフィヒテの知識学について

三村　信二　ニィチェにおける「ニヒリズムの克服」の意義――『ツァラトゥストラ』を中心として――

猪上　敏雄　Wittgenstein; 後期の方法について

岡　孝　カントの自由の概念――特に「選択の自由」の位置づけについて

柏原　一郎　ショーペンハウアーにおける認識と意志

酒井　明　実存における時間性の問題

印度哲学史

正信公章　Aitareya-upaniṣad について

中国哲学史

浜田達規　『荘子』内篇の研究

心理学

大西香代子　対人印象形成過程における情報の効果

折井千春　面積保存の獲得過程に関する一考察

加納道子　性意識について
——性、年齢、職業の有無による違いの考察——

島成光　白ネズミのレバー押し反応持続時間の分化

鳥居正雄　シロネズミにおける multiple DRL schedule と飢餓水準の効果

新美明夫　電撃に先行する信号音のネズミに及ぼす効果について

長谷川芳典　選択行動における強化量の効果

芳賀繁　文の知覚的分節と処理
——いわゆるクリック法について——

平松淑子　語の音節分解と抽出能力の発達

光冨由紀　対人魅力について

皆本也寸志　リーダーシップ・タイプによる集団の効果性、およびリーダー交替について

村井庸子　態度変容について

川崎二三彦　要求水準の問題について

関根哲　概念同定課題における子供の情報処理過程の研究

中岡進　逆転移行学習における媒介過程モデルについて

簑輪一雄　色彩の感情値
——概念と実際色との比較——

矢野亮　思考の発達についての一考察

山口寿敬　色彩の感情値

流郷敦子　ことばの記憶における心像の役割

高須達雄　人間
——生命、行動、思考、この神秘なるもの——

高城寛志　幼児における図形類同視の特徴について

藤原健一郎　心理学と哲学
——ピアジェ小論——

倫理学

引田洋二　ニヒリズムとその展開
——ニーチェとドストエフスキーの場合——

鳥羽久弥　M. Buber;『我と汝』について

美学美術史学

池田由起子　ウィリアム・ブレイク
篠原資明　アンリ・ベルグソンの芸術理論
中川真　音楽空間について——Hanslick, 》Vom Musikalisch Schönen《に沿って——
大嶋和久　ルカーチの美学理論について
笹山央　美学のカテゴリーとしての特殊性について G・ルカーチとM・ポンティの論文を検討乃至依拠して論ずる

社会学

奥みち代　レジャー論
指方秀雄　M.Weber における政治社会学の視座とその現代的意味
沢田善太郎　マックス・ウェーバーにおける資本主義の構造
堀英子　ウェーバーにおける「職業」の意味——行為論の視点から——
村上徳　社会的コミュニケーションのメディア論的考察——その文化史的・社会心理学的視座から——
安野早己　チベットの家族と婚姻
内山繁　「アフルーエント・ワーカー」研究を中心とする労働社会学の考察
徐信子　マージナルマンとしての在日朝鮮人
杉本員博　近代社会の成立について
藤原純二　社会化と社会的逸脱
松田順子　意味の回転軸
林俊夫　*American University* (1973) におけるT・パーソンズ

宗教学

石島孝文　カントの定言命法について
気多雅子　『ツァラトゥストラはこのように語った』の「身体」の概念について
岸本節子　デカルトの形而上学
菱木政晴　ホワイトヘッドの形而上学

仏教学

秋本勝　Anuśaya について
草野音哉　Suttanipāta について（第四章 Aṭṭhakavagga および第五章 Pārāyanavagga を中心として
本庄良文　長老偈、長老尼偈について
吉村武敏　道元

三　京都大学大学院文学研究科（哲学系）修士課程修了論文題目

——昭和五十年三月——

基督教学

根岸晴美　キリスト教における「罪」についての考察

安酸敏真　キリストの出来事と救済史

哲学

伊藤邦武　デカルトの方法の形成
——『精神指導の規則』の考察——

鉾之原善章　ハイデッガーに於ける無の問題

倫理学

池上哲司　M. Scheler の同情（Sympathie）論

柴田秀　現代と自由

大町公　ホセ・オルテガ・イ・ガゼにおける「歴史的危機」解明の方法

中国哲学史

向井俊夫　漢氏道家思想について
——淮南子、王充を中心として——

印度哲学史

後藤敏文　rabh-: labh-+ā, ramb-: lamb-.rambh-
——Veda 文献を中心として——

八木徹　Mahābhāṣya ad Pāṇ. 1. 1. 56
——インド文法学研究の試み——

西洋哲学史

鎌田康男　超越論的批判哲学と物自体の問題

中岡成文　若きヘーゲルにおける Versöhnung の理想

山口義久　Στοιχεῖα Συλλαβαί
——Platon; Theaetetus の考察を中心として——

山下一道　『純粋理性批判』における人間認識の超越論的構造

宗教学

藤田正勝　ヘーゲル哲学における方法について

松丸寿雄　『有と時』における自己

工藤宜延　キェルケゴールに於ける宗教的実存の問題

仏教学

小谷信千代　仏教における行為論

基督教学

森　哲郎　キェルケゴールに於ける「自己への途上」について

心理学

佐伯康子　ラッテの Visual Cliff 行動

田中まゆこ　対人距離と人間関係

広瀬幸雄　コンフリクト状況における集団内地位分化及び報酬分配

藤嶋　実　消去時における負荷条件の過剰訓練効果

水島基喜　距離判断に関する実験
——係留効果と等距離傾向について——

丸岡令子　ソシオメトリックテストによる学級集団の構造

社会学

富永茂樹　トックヴィルにおけるアソシアシオンの概念

藤田栄史　新しい労働者階級論の検討

溝部明男　初期パーソンズの主意主義について

美学美術史学

金田千秋　ホワイトヘッドの知覚理論

上倉庸敬　エチエンヌ・ジルソンの芸術哲学に関する一考察

金春康之　芸術作品における真理の生起について
——ハイデッガーの芸術解釈に関して——

中島博　宮曼荼羅の性格

四　京都大学大学院文学研究科（哲学系）博士課程単位修得者研究論文要旨題目

——昭和五十年三月——

哲学

河野勝彦　デカルトにおける知覚的世界と物理的世界

杉山聖一郎　デカルトにおける自然学の特徴

田村祐三　点と線
——ゼノンの「多の論駁」と現代数学——

倫理学

安彦一恵　G・W・F・ヘーゲル。体系以前期における思想形成の内面的展開
——ヘーゲルにおける《理念》と《現実》——

中国哲学史

西脇常記　劉禹錫を中心とする中唐思想史

西洋哲学史

内山勝利　生成的世界の根底にあるもの
——プラトンの魂論への一視点——

円増治之　ニーチェのニヒリズムについての予備的考察
——近代主体性の形而上学を通して——

種村完司　「発展」の概念についての考察
小浜善信　ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』に就て

溝口宏平　ハイデッガーと時の問題
依田義右　メーヌ・ド・ビランにおける意識の原始事実の導出について

今林万里子　ソクラテスの定義と *Χωρισμός*

宗教学

大越愛子　フィヒテ知識学
——知の自己探求の軌跡を追いて——

高田信良　哲学的信仰と形而上学

米沢穂積　宗教哲学の立場からみた人間の根源的共同性

仏教学

早島理　manojalpamātra
—Yogācāravijñānavāda における——

沖和史　《citrāvaita》覚書

伊藤香美子　青年キルケゴールのキリスト理解
——回心にいたるまで——

湯浅忠優　キルケゴールにおける「同時性」の問題

心理学

梅村智恵子　記憶学習における視覚的記憶像と言語の関係について

大倉正暉　視空間の定位と自己の身体の定立
——その現象的考察——

美学美術史学

米沢有恒　ハイデッガーの芸術解釈について

五　阪本財団からの補助金について

このたび、阪本財団から、京都哲学會へ、過去三年間の補助に加え、昭和五十七年度の「哲学研究」刊行のため、これまで同様、多額の補助金を戴きました。あらためて同財団へ深甚の謝意を表し、あわせて會員各位に御報告申しあげます。

昭和五十七年十月二十日　　京都哲学會

六　山内得立名誉教授の御逝去

會　告

京都大学名誉教授、文学博士、文化功労者、山内得立先生は、本年九月十九日午前七時四十分、京都市花園天授ヶ丘の御自宅で逝去された。享年九十二歳。

先生は奈良県大和高田市の御出身。大正三年七月、京都帝国大学文科大学を御卒業ののち、西田幾多郎教授のもとで副手として、ついで同九年からの三年餘にわたる欧米留学においては特にフライブルク大学のフッサール教授のもとで、研鑽を重ねられた。御帰朝後東京商科大学に奉職されたが、聽て昭和六年には母校京都帝国大学文学部に迎へられる。以後昭和二十八年に停年で退かれるまで、はじめは西洋古代哲学史講座、ついで哲学講座を担当された。この間、数々の論文や著書によつて常に学界の第一線に立たれるとともに、多くの後進を育成されたが、その御精励には、京都学芸大学長、竜谷大学文学部教授を歴任された晩年にも些かの絶間もなかつた。

すなはち、『現象学叙説』（昭和四年）『存在の現象形態』（昭和五年）に代表される現象学的存在論の研究時期、次いで大著『ギリシアの哲学』（昭和十九年～二十五年）に結集する西洋哲学史研究の時期、さらに『実存と所有』（昭和二十八年）から『意味の形而上学』（昭和四十二年）にいたる・形而上学的体系の探究時期、最後に名著『ロゴスとレンマ』以後の、東西哲学の綜合的理解の試みの時期――七十餘年の御思索に区切られるこれらの分節がいかにそれぞれその当時の最大の哲学的関心事への鋭敏な反応であるか、また同時に時流を超越した自律的な独創であるか、多言を要しない。先生は、はじめ純粋客体性の立場を、絶対主体性の立場が必らずそこに行き着くべき場所として提出されたが、次第に思惟の原則の批判的分析を通じて、東西哲学を綜合的に理解しうべき原点にまで到らうとされたのである。しかも先生は病床にあつてなほ、経済学、文芸論、そして宗教論を順次論ずる構想を練つておられた。

また、『哲学研究』の創刊（大正五年）に際しては、朝永三十郎教授の御指導のもと、植田寿蔵先生とともに刊行に尽瘁される。以後、執筆面では創刊号の「ベルナルド・ボルツアーノ」から前号の「随眠と帰属の理論」にいたるまで、二十四篇を二十九回にわたつて御寄稿いただき、編輯はもとより経営面にまで数多の御配慮をいただいてゐる。

このやうに、学問への厳しさと情熱とに貫かれ、京都哲学の伝統の維持と顕揚とに砕身する日常であられたが、後進には真率かつ温容をもつて導かれた。

いま御訃報に接し、先生が学界に遺された御偉業と御功績とを偲べば、讃嘆尽くることなく、在りし日の御人柄を思へば、思慕哀惜果つる所がない。謹んで御冥福と御平安とをお祈り申しあげる。

昭和五十七年十月二十日

京都哲学會